



建設中の町内会館

# 町内会館 完成間近です 建設に至るまでのご尽力に感謝

町内会館の建設工事が、広袴公園の南方に位置する所で進行中です。8月末完成の予定ですが、今までに至る経緯に関して、建設委員長の吉川俊雄氏にお伺い致します。

た。現在の町内会館建設の運びとなるまでには吉川氏が町内会副会長であられた当時、吉川和志会長を中心に地権者の方々と共に計り知れないご苦労のあったことがお話から推察できました。

## 会館用地に至るまでの経緯

平成十年に会館準備委員会が発足いたしました。会館用地は、町田市計画鶴川第二土地区画整理事業に廻ります。この事業は昭和62年4月に施行、平成15年5月に完成されました。当時事業地内に古くから村人が奉る氏子神である天王山がありました。土地の人々を疫病などから守る道祖神であった石の祠でできた天王山は平成2年7月に広袴神明社境内へ移転しました。今も夏の伝染病守り神として多くの町人により毎年7月15日に祭りが行われています。その天王山跡地を含め多くの地主地権者から平成元年3月に土地(830・91平方メートル)が提供され、会館用地として区画造成されました。この土地を町田市に寄付し、平成15年10月集会施設用地(391・14平方メートル)となったのです。

## 中規模集会施設補助金

当初町民の寄付による会館建設を考慮しておりましたが、町田市に建設のための補助金のシステムがあることを知り、補助を受けるために想定千世帯を提示し、市に申請しましたが受け入れられませんでした。そこで広袴1丁目から3丁目のみならず町会を別を持つフレッシュタウン鶴川自治会

東京都町田市広袴町町内会

発行責任者

会長 吉川俊雄

〒195-0056

東京都町田市広袴2-17-19

〈電話・FAX〉

042-735-5464

広報部長 松田清貴

〒195-0052

東京都町田市広袴町103-10

編集長 中村一行

〒195-0052

東京都町田市広袴町52

〈電話・FAX〉

042-734-8632 (松田)  
042-734-9708 (中村)

も含めて再度千世帯を超える世帯数をもって申請し、平成13年5月、3年後という条件で承諾されました。また町田市の規定により、会館は中規模集会施設ということことで、補助金は認可されました。地権者の方々にも様々な考え方がありそれをまとめ本換地にまで持っていくためのご苦労は想像以上に困難なことであったことを認識し、ここでこれからの会館を利用させて頂く住人として感謝せずにはいられません。

平成16年7月に目度度く登記が完了しました。地権者の方々にとって先祖代々の大切な土地なのですから、そこにはそれぞれ



天王山・石の祠

の歴史があり、深い思いもずつしりと詰まっていることと思います。改めて御協力有難うございました。

## 工事中建設に至るまで

こうした土台を基に平成16年9月、町内

会館建設委員会が設立されました。委員会は町内会が主となり、三役、各組委員、地主地権者19名に加えフレッシュタウン町会から1名で構成されました。建設に関しては、町田市の中規模集会施設に関する概要、補助金要綱の説明を受け、建設委員による既設集会施設(今井、馬場さくら会館)の見学を経、建設に詳しいNPOの力なども一助に資料作成の上、建設会社3社と交渉を進め、最終的に12月23日に建設委員会において、山口建設に決定いたしました。平成17年1月、町田市に図面などの建築確認申請をし、市の様々な規定を網羅した後、平成17年2月13日地鎮祭を行い、2月22日に建築着工、3月31日には無事上棟式が行われました。しかし市の補助金だけでは設備を整えるのに資金が不足してしまいました。より充実した会館にするためにも、皆様からの寄付を御願いし、多大な御協力を頂きましたことを感謝申し上げます。会館はさまざまな活動(簡易葬儀、法事、趣味の会、サークル)に幅広く利用できます。町での活動、交流に大いに活用下さい。

最後に旧会館の土地を20余年に渡り無償で提供して下さいました吉川勝様に解体の上ご返還申し上げますと共に心より感謝申し上げます。さらにここに至るまでさまざまな形で御協力御尽力下さいました町内会の皆様はじめ地権者の方々、建設委員会の方々に感謝申し上げます。

(佐々木幸子・飯塚明子)



平成17年度定期総会開催

平成17年度定期総会は新会長・新副会長が未定のまま規定より1週間遅れの4月24日、午後2時より町内会館にて100名の出席者と315名の委任状、計415名の有効出席者数により成立を確認の上(会員総数550名)開催され、町内会長、副会長を除く会計、書記、各組の委員、各組の班長が新しく就任しました。新しい役員の詳細については別表のとおりです。

平成16年度の事業報告、決算報告・17年度の事業計画・予算については前会長の吉川俊雄、前副会長兼会計の中村一行より説明があり、会計監査からいくつか指摘事項もありましたが、承認されました。16年度の会費収入は会員皆様のご協力により58万2千800円の納入をいただきました。その結果総収入は52万円となり、総支出が30万円であったことから、202万円の次期繰越金となりました。この収入の中には既存の定期預金全てを取り崩した112万円も含むので、実質の繰越金は90万円であり(内前年度の繰越金59万円)16年単年度の繰越金としては31万円であったこととなります。町内会の財産としては前期の財産額171万円にこの31万円を加えた202万円が新しい財産額となり、次期繰越金と一致します。

平成17年度予算につきましては会員数を550名と見積もり、概ね全年を踏まえた編成とし、予算規模で544万円としました。支出の中で100万円は(仮称)広袴中規模集会所設備品購入のための収入として建設委員会が予算化していたので町内会としても直ちに建設委員会に支払いできるように引当金

計上し、予備費も98万円と通常よりも潤沢にし、建設委員会が必要な場合に充分応援できるように配慮致しました。決算・予算の詳細については別表のとおりです。

今年各組の部長からこの1年間の活動報告をしていただく予定でしたが時間の都合でできませんでした。また、副会長未定の為、会計、書記、新部長・新副部長も決定済みでしたが、総会当日は特に紹介されませんでした。

また、旧9組、旧10組の編成替えを行い、新11組が誕生したこと、旧14組の編成替えを行い新14組と新15組になったこと、その結果旧15組が新16組と名称の変更がなされたことも報告され承認されました。

最後に建設委員会委員長の吉川俊雄から、(仮称)広袴中規模集会所施設建設に伴う寄付の必要性の説明とお願いがなされました。

後日、5月21日に新旧の部長・副部長の引継ぎが行われた他、6月11日に行われた役員選挙委員会において遅ればせながら新会長、新副会長も選任、受諾されました。続いて6月12日には役員会が開かれ、総会に替って新会長・新副会長の承認がなされ、更に、各班長が部長としてどの部に所属するかも決定しました。以上の結果、別表の陣容で今年度船出することとなりました。皆様の絶大なるご支援をお願い申し上げます。(中村一行)

平成17年度 広袴町内会 役員名簿

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
相談役	吉川 和志	委員 7組	阿部 重雄	班長 3-C	小西 康彦	班長 12-B	勝俣 芳史
会長	吉川 俊雄	委員 8組	吉川 孝太郎	班長 4-A	四位 実	班長 12-C	夏目 義久
副会長	中村 一行	委員 9組	西川 和保	班長 4-B	杉山 隆男	班長 12-D	徳川 必要互安
副会長	西川 文二	委員 10組	小泉 鉄馬	班長 5-A	塚本 明	班長 13-A	迎 利恵子
副会長	宮前 宏	委員 11組	久保田 啓臣	班長 5-B	橋本 謙二	班長 13-B	近藤 浩造
会計	吉川 孝太郎	委員 12組	百瀬 伸一郎	班長 6-A	吉川 久雄	班長 13-C	小谷 英彦
副会計	太田 勝	委員 13組	武藤 寛治	班長 7-A	加賀 城	班長 14-A	佐藤 鉄郎
書記	吉澤 一美	委員 14組	松本 勇志	班長 8-A	河野 真鑑	班長 14-B	永井 一夫
副書記	寺本 誠一	委員 15組	吉澤 一美	班長 9-A	仁科 文子	班長 14-C	阿波 智彦
会計監査	小林 豊	委員 16組	江川 富雄	班長 9-B	鳥田 愛子	班長 15-A	織田 早比古
会計監査	大久保 和彦	班長 1-A	石原 幸男	班長 10-A	大関 喜久	班長 15-B	高桑 正行
委員 1組	寺本 誠一	班長 2-A	大場 義治	班長 10-B	吉川 佳助	班長 15-C	剣持 智博
委員 2組	中山 裕之	班長 2-B	蛭沢 憲也	班長 10-C	三宅 正太郎	班長 16-A	池田 仁
委員 3組	渡邊 和俊	班長 2-C	小菅 盛平	班長 11-A	久保田 啓臣	班長 16-B	横山 幸雄
委員 4組	太田 勝	班長 2-D	照内 貴	班長 11-B	田中 利男	班長 16-C	石川 聡
委員 5組	駒田 陽一	班長 3-A	清塚 晃	班長 11-C	小暮 厚之		
委員 6組	松田 清貴	班長 3-B	三野 晴邦	班長 12-A	清水 公孝		



新町内会四役



副会長  
中村 一行



副会長  
西川 文二



副会長  
宮前 宏



会長  
吉川 俊雄



副書記  
寺本 誠一



書記  
吉澤 一美



副会計  
太田 勝



会計  
吉川 孝太郎

[平成16年度 広袴町内会 会計報告書]

一般収支報告書(自平成16年4月1日~至平成17年3月31日)(単位:円)

項目	予算	決算	増減	摘要
町内会費	1,800,000	2,076,300	276,300	497×4000+新規加入61
市助成金	102,000	123,060	21,060	200×400+12,000、落書き 消し用品購入費 21,060
自主防災助成金	42,250	42,250	0	65×450+13,000
社協活動費	2,000	0	-2,000	
会館賃貸料	5,000	1,000	-4,000	
盆踊り	700,000	818,375	118,375	支出との差額は黒字で 66,546
簡保活動費	294,533	332,299	37,766	
雑収入	10,000	13,658	3,658	簡保剰余金の還元金 9,089
定期預金解約戻入	0	1,120,088	1,120,088	新会館備品購入の為の来 年度予算に充当する為、 別会計から本予算に繰入
前年度繰越金	593,982	593,982	0	
計	3,549,765	5,121,012	1,571,247	
助成金				
消防団	170,000	180,000	-10,000	17名の団員が1名増員 となり18名
広楽会	30,000	30,000	0	
敬老費	20,000	20,000	0	
子供会	30,000	30,000	0	
消防後援会	30,000	30,000	0	
青少年健全育成	20,000	20,000	0	
募金	120,000	120,000	0	日赤45,000 社協25,000 赤い羽根25,000 歳末助 け会25,000
連合会費	13,000	13,000	0	鶴連9,000 市連4,000
体育祭費	150,000	119,790	30,210	
防災費	100,000	135,201	-35,201	落書き消し用品購入費 22,120
運営費				
会館維持費	600,000	502,544	97,456	地代360,000 火災共済 2,920 電気11,347 電気 42,036 水道11,489 新会 館用補助金231,000 上戸の電気料200 灯油 6,254 電球128
事務消耗品費	30,000	22,714	7,286	
印刷費	280,000	273,335	6,665	広袴便り158,130(夏 号)、103,950(冬号)
雑費	30,000	26,968	3,032	とんど焼き等11,445 新年会補助11,408
交際費	280,000	239,000	41,000	
議会費				
総会費	80,000	70,878	9,122	定期総会62,390 臨時総会7,207
委員会費	80,000	47,116	32,884	
盆踊り	900,000	751,829	148,171	
備品費	120,000	0	120,000	
慶弔費	80,000	61,500	18,500	慶事3件 弔い5件
予備費	386,765	410,165	-23,400	(仮称)広袴中規模集会所 建設委員会副会長費: 地代30,000 印刷代 (15,000) 顧問料 (196,875) 地盤調査費 用補助(94,765)会議費 (55,337)コピー代 (10,126)その他(8,064)
計	3,549,765	3,104,040	445,725	
次期繰越金	0	2,016,972	2,016,972	普通預金1,954,526 現金62,446

[平成17年度 広袴町内会 一般会計予算]

(自平成17年4月1日~至平成18年3月31日)(単位:円)

項目	予算案	16年度決算額	比較増減	摘要
前年度繰越金	2,016,972	593,982	1,422,990	
町内会費	2,200,000	2,076,300	123,700	4,000×550
市助成金	122,000	123,060	-1,060	200×550+12,000
自主防災助成金	48,750	42,250	6,500	65×550+13,000
社協活動費	2,000	0	2,000	
会館賃貸料	10,000	1,000	9,000	
盆踊り	700,000	818,375	-118,375	
簡保活動費	332,299	332,299	0	
定期預金解約戻入	0	1,120,088	-1,120,088	
雑収入	10,000	13,658	-3,658	
計	5,442,021	5,121,012	321,009	
助成金				
消防団	180,000	180,000	0	
広楽会	30,000	30,000	0	
敬老費	20,000	20,000	0	
子供会	30,000	30,000	0	
消防後援会	30,000	30,000	0	
青少年健全育成	30,000	20,000	10,000	地区対20,000 鶴二小 小学校園敷10,000
募金	120,000	120,000	0	日赤 社協 赤い羽根 歳末助け合い
連合会費	13,000	13,000	0	
体育祭費	150,000	119,790	30,210	
防災費	200,000	135,201	64,799	
運営費				
会館維持費	700,000	502,544	197,456	地代 火災共済 電話 電気 水道他
事務消耗品費	30,000	22,714	7,286	
印刷・広報費	280,000	273,335	6,665	
雑費	30,000	26,968	3,032	
交際費	280,000	239,000	41,000	
議会費				
総会費	80,000	70,878	9,122	
委員会費	80,000	47,116	32,884	
盆踊り	900,000	751,829	148,171	
備品費	200,000	0	200,000	
慶弔費	80,000	61,500	18,500	
予備費	979,021	410,165	568,856	
会館引当金	1,000,000	0	1,000,000	
計	5,442,021	3,104,040	2,337,981	
次期繰越金	0	2,016,972	-2,016,972	

上記のとおりご報告致します。平成17年3月31日 会計 中村 一行◎  
監査の結果いくつかの指摘事項が監査人である吉川久雄並びに姉崎進からなされた  
ましたが、当該指摘事項については定期総会にて検討の結果、特に問題はないという  
判断が下され、本会計報告は適正であると定期総会の場で認められたことを証します。

平成17年4月24日 定期総会議長 渡辺 公治◎



〈平成17年度事業計画〉

平成17年度行事日程計画(予定)

1 各種福祉募金活動

日赤 社協 赤い羽根 歳末助け合い

2 自治消防及び災害対策の推進

消防署 消防団第七部との連携を図り防火、  
防災訓練の実施

3 青少年対策への協力

二小 二中 青少年第二地区対 子供110番  
地域と子供会の連携支援

4 町内各種団体の育成強化

消防団 広楽会 子供会 後援会等、相互の  
協力

5 防犯、交通事故防止活動の展開

警察署 駐在所 町田市との連携 防犯の集  
い 防犯灯増設 パトロール等 安全安心町  
づくり

6 環境衛生活動の推進

ゴミ減量 ゴミのルール 犬のフン始末 環  
境美化を図る

7 町内会館建設への推進

完成竣工、開館、管理運営委員会の立ち上げ

	項 目	月 日
1	自主防災訓練(消火器、三角巾等) AM 9:30~11:00(雨天中止) 広袴公園、多目的広場	7月31日(日)
2	盆踊り準備(ヤグラ建て) PM 1:00~5:00 広袴公園、多目的広場	7月31日(日)
3	盆踊り大会 PM 6:00~10:00(雨天中止) 広袴公園、多目的広場	8月6日(土)
4	市総合防災訓練(各町内会の連携) AM 9:00~11:30 鶴川中央公園	8月28日(日)
5	市民運動会 AM 9:30~16:00 市立陸上競技場一野津田公園	10月2日(日)
6	町内会忘年会 町内会館	12月上旬
7	自主防歳末警戒(町内巡回) PM 10:00~12:00 町内会館にて待機巡回	12月29日(木) 12月30日(金)
8	新年初顔合わせ(年始挨拶会) AM 9:30~ 神明社境内	1月1日(日)
9	どんど焼き(お正月飾りを子供達が集めて焼く) 1月8日(日)AM 8:00~12:00(前準備) 1月14日(土)PM 6:00(点火)~8:00 真光寺川右岸の田圃	1月14日(土)
10	自主防災座談会と新年会 PM 1:30~2:30(映画と座談会) PM 3:00~5:00(懇親会) 町内会館	1月22日(日)

広袴町内会 各部会組織図 (平成17年度)





# 各部のお知らせ

## 文化部

さまざまな行事を用意し、交流や親睦を図っております。

**夏祭り** 広袴公園で8月に開催します。

焼鳥・焼きそばなどの模擬店もあり子供会からも出店します。やぐらが設置され盆踊りも開催されます。盆踊りは前もって練習があります。ほとんど参加してください。やぐらの設置をなさって下さる方々や盆踊りのご指導に当たって下さる方に感謝申し上げます。

**運動会** 野津田競技場で10月に開催されます。鶴川地区全体の行事です。広袴町内会のテントも設営されます。子供から老人向けまで様々な競技が用意されていますので、家族揃ってご参加ください。

## 環境衛生部

環境衛生部の本年最大の課題は10月に開始されるゴミ

収集の有料化と戸別回収への対応です。実施後の回収ルール徹底と放置ゴミをなくすことを目指したいと考えています。御協力お願いいたします。

## 広報部

広袴便りは町内会の皆様によって支えられています。どしどしご提案や、新企画のアイデアをお寄せ下さい。将来は会報のカラー化を目指しています。

## 防犯・防災・交通部

いざ災害が起きた時の救助・避難生活が順調に行われるには日頃からの心掛けが大事です。防災の目標を挙げます。

## 防犯

- 1 お互い隣近所と親しくお付き合いをする。
- 2 各家庭に有する発電機・ジャッキ・丸鋸等を報告して頂き一覧表をつくる。
- 3 各家庭にある飲料に適した井戸の揭示をして頂く。

## 防犯

隣近所のお付き合いが不審者(車)や空き巣などからの防犯に繋がります。ワンワンパトロール・買い物時の自転車籠のステッカーの取り付け・定期的なパトロールを推進したいと思えます。

## 交通安全

町内道路を高速で走る車を防ぐため減速用の凹凸を設置するように市に申請予定で

## 総務部

総合的事務局の役割を果たします。

- 1 会員情報の管理をします。加入、退会、移転等のお届けはこちらです。
- 2 回覧物の作成、配布承認、総合管理を行います。回覧物のご相談はこちらです。
- 3 町内の諸会議資料の作成を行います。今年度から書記もでき、議事録管理も行えるようにしたいと思えます。
- 4 部長会で決定された行政当局に対する諸申請書作成を行います。当局に対する要望事項は各部会を通してご相談ください。



## 移転・変更・訂正・新入会員 (平成17年5月31日現在)

入会	川村正裕	5組A班	入江慎一郎	15組A班	堤池英明	明雄
1組	ユースフ・モハメッド	11組B班	山田茂道	15組B班	内田泰	蔵修史
2組A班	加藤英広	12組A班	土田井川		内田泰	修史
2組B班	(スリーエフ)	12組C班	櫻井川岡		内田泰	修史
2組D班	神功	13組A班	片岡島	15組C班	内田泰	修史
4組A班	安藏	13組B班	杉野貫		内田泰	修史
	荒井	14組A班	永野	退会	内田泰	修史
	大坂	14組B班	萩野	1組	内田泰	修史
	月岡	14組D班	寺田	2組A班	内田泰	修史
	辻村	15組A班	西本	5組A班	内田泰	修史
	野村		松村	5組B班	内田泰	修史
	羽生		高桑	11組B班	内田泰	修史
	羽生		春日	14組A班	内田泰	修史
	羽生		佐藤		内田泰	修史
	羽生		竹内		内田泰	修史



**会員の消息**

15組A班 古内久夫 移転

1組から14組A班に移転 洞口正

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

9組D班 芦田昭子氏

4組B班 太田一夫氏

注14・15組は平成16年度の旧組の名称です。



家庭の中の子ども 学校の中の子ども

編集部では鶴川第二小学校、中村雅子校長にインタビューし、創立40周年を迎えるの感慨を語っていただきました。



中村雅子校長

**失われた日本の文化、日常性の中の芸術**  
 私の夫は尺八の演奏家です。どうしても日本の文化、わけても失われた文化を復活させたいという情熱に駆られ、化学の会社に2年程勤めた後退職し、音楽の道に入りました。ところが、日本の音楽教育の場というのは、単純に学びたいと思っても、例えばピアノができないと受容れてもらえないという状況があつて、ではその中でどうしたらいいかと考え、結局国内での就学を諦め、アメリカ、ボストンへの留学という道を選んだのです。

そんな時、ボストンやニューヨークに立ち寄った時に感じたのですが、地域に根ざし、生活と一体化し、特別扱いされていまい芸術の有り様に非常に感銘を受けました。そして、そうした日常性の中でしっかりと芸術を育む地域や家庭があるからこそ、コンサートホールでの演奏会に真に敬意を表することが出来るのだ、という思いを強くして帰って来ました。小さな教会にフツと足を踏み入れた時、そこで70才くら

いの方が音楽を演奏し、憩いの場を持っているという芸術の有り様に胸打たれたのです。これが日本にも欲しいなあ、と思いましたが、尺八を通して復活させたいと目指した日本の文化というのも畢竟このことかと思つたのです。室町や江戸の時代には(尺八)音楽がもつとと庶民の身近にあつて、庶民がそれを楽しんでいたのであろうし、もつともつとコミュニティ(近所づきあい)があつた。ところが近世になってそれが壊れてきた。ではそれを元に戻したい、昔を取り戻したい、という願望があつてもどうしてよいか分らなかつたりしている。

教育の力

これには教育も加担している面があつて、教育も批判されなければならぬと思ひます。音楽教育一つを取ってみても、明治維新は多くの賞賛されるべき点がある反面、大きく壊してしまつたものもある。いわば日本人の価値感の中に教育によつて刷り込まれた断層のようなものができてしまつた気がする。その時捨て去られた旧いものを掘り返してみても復活せねばならないものを見据えたい。例えば尺八の本曲の本当の正調は一つしかないのですが、伝承されるものなので、九州には九州の伝わり方があり、富山には富山の伝わり方があり、微妙に違つて伝承されているものなのです。そういうものに今一度目を向けることにより日本人が本来大事にしてきた原点に回復できる一つの方法になるのかな、と思つたりしています。音楽だけでなく、ドイツのくるみ割り人形のような本物の職人技に接すると、その作者や家族のことに思いが馳せられ胸が熱くなる思いがします。

価値のある守るべきもの

小さなもの、弱いもの、微妙なもの、価値の解る少数の人々によつて細々と守られている、非常に弱いものであるが故に大事なものの、明治維新のような大きな力で一掃されたらすぐさま壊滅してしまふようなもの、そういうものを伝承し、価値のある守るべきものであるという考え方を、多くの方々と共有し、教育の中でも伝えていけたらよいと思つています。

無償の愛

鶴二小には平成15年に赴任してきたわけですが、その前は都教育委員会の教育相談センターを皮切りに町田市内の他の小学校で1年間教頭職を務めていました。その中でもいつも腐心してきたことは、心の荒廃している子供達が居た場合、そういう子供達の心にかかると接する、いかにケアするか、どうしたら人間らしい温かい心を取り戻せるのかということ、親には所詮成り代われないとしても、その子に対して少なくとも一杯一杯「無償の愛を捧げる大人がここにいますよ」ということを私と私の仲間が教員の方で伝えたいと思つてきました。その子の心の回復をすることができないとしても、きつと心に残るものがあるはずで、その子はそれを心の糧に生きてくれると信じています。人形師が人形に向かい合つて魂を入れるように子供にも接するということが、子供が何か訴えてきた時に、その言葉以上のものをできるだけ酌み取つてあげるということ、大人以上に子供はまだまだ心に残らなく、そして接することが必ずや心に残ると信じています。

甘えられるということ

児童擁護施設というものは子供が自ら望んで来た処ではなく、大人の状況、つまり家庭が壊れ、家庭で育つことが出来ないという状況になったために来るを得なかつた処でそこには甘え方の分らない子供達が大勢います。1対1で親との繋がりの中で甘えられるという環境が決定的になくなるということ、その心の傷だけは取り返しよれない。そうした子供達がどうやって大人に愛を求めるかという、暴力という形をとることが多いのです。それが教師に向けられて対教師暴力になり、子供達に向けていじめとなつて現れてきますが、その子供達はそうやって人に対してつながらずを求めているのです。残念ながら、その時本当に望んでいたのは「近づきたい」というメッセージであるのに、それが暴力という形をとるために、危険で相手は逃げて行つてしまふ。その時相手にされずに残された子供の心に残るのは大きな欲求不満なのです。ではどうすればいいのか、ということになりませんが、肉体的なこともあり難しい。手をつなぐこと一つでも拒否反応があつたりする、本当はつなぎたいのに。それで玩具を手渡したり、遊びながら玩具の貸し借りをしたりボール投げをしたりして間接的に手をつなぐことを試みる。そうすると、わざと減茶苦茶に強烈な球を投げてくる子供もいます。しかし、それを続けて行く内に、「ああ、人間と人間とはこうして繋がつて行くんだ」と強く体感するようになる。できることなら小さい時から目と目を見て繋がりがあつて欲しかつたし、泣い



たらあやして欲しかった。教科の学習も大事だが、学童期にしっかりと気持ちを受け止めてもらうという経験、体験がその子供の順調な精神成長にとっても大事で、子供に接する時はそこができていかどうかを観るのがとても肝要だと思うのです。鶴二小では幸いそこができていた恵まれた子供が多く、あまり心配はしていません。

#### 鶴二小での40周年記念イベント

40周年のイベントとして、子供達に鶴二小に在籍する喜びを思い切り表現させる式典を持ちたいとおもいました。それで音声や子供の言葉で呼び掛けるものを作り、その発表ができたのをとても嬉しく思っています。

1年生は校庭中のありとあらゆる木の葉を集めて押し葉を作り、校庭にある樹木の種類とその1年間の四季の推移とを発表しました。1年生なりの精一杯の表現と発表で素晴らしいものでした。

2年生は鶴川駅の近辺を歩いて絵地図を作り発表しました。その絵地図に人間を貼り付けていくと道路にも人間と車を貼らざるを得なくなると、ウーン、これでは轢かれてしまう、となった時、もう一度現場に戻って事実を確かめ、轢かれぬように貼り変えたりしている。自分達が自分の目で見、自分の足で歩いて感じ取ったことを表現しているのが素晴らしいものでした。それは子供達が地域を知ることですし、未来の大人になる基礎としても素晴らしい経験だったと思います。

3年生は地域探検という呼び掛けをしました。地域の自然が失われている。でも、ちよつと良く観ると自分達の周りにはまだ

まだこんなに自然があるよ、ということをも自分達で観察して発表しました。建築業者が地面を掘り起こしたら甲虫や蟬の幼虫が一杯出てきて、それを皆であわてて埋め戻したという体験もあり、それを通して生命が一杯自分達の周りにあって、それを護って行くのが自分達の役割なんだと感じた、その感慨を「狸さん、こっちはおいでよ、こんなに自然が残っているよ」という呼び掛けの声と共に発表したのが素晴らしいものでした。

4年生は能ヶ谷囃子を地域の方に教えていただく発表しました。大きな竹を切ってきてバチを作り、皆でそれを叩いて練習したのでした。その合奏が実に見事で、鶴二小の先輩も合奏協力をしてくれるのを見てみると、その拍子を刻んで皆でまとめる迫力以上に世代間で着実にその技術が伝承されていく素晴らしいことに胸打たれました。

5年生は授業の中の学びあいを鶴二小の教育目標「自分で学ぶ、みんなと学ぶ、自分を大切にすること、みんなを大切にすること」という標語に基づいて発表しました。例えば5個のリングと3個のミカンがあった場合、単純に5+3という数式に置き換えるのを直ぐに要求するのではなく、どうしてそれが5+3という数式になっていくのか、ということを書かせ、5+3の意味を考えさせるようにしました。それ皆で言い合っていた時に、そうかそんな考え方もあったのか、という新鮮な驚きに打たれることもしばしばありました。また、ある図形の面積を求める時に、その図形の一部を切り取って張り合わせるという常識的な反応を予測していたら、ある生徒がそ

の図形を方眼紙にそって全部ハサミで切り、その上でそれを並べ替えるという気の長い作業をしました。でも、それをしてから今学んでいる長方形になるのだというその子の考え方がまざまざと見えるのです。ここには計算式で解く以上の哲学があり、そこに学びがあるのだと非常に感動した一瞬でした。そうした柔軟な発想を十分に伸ばすことにより、短絡的に物事を処理しない奥深さのある人間性の形成が期待できると考えています。

#### 子供に自信を持たせるということ

以前、さる外国人の友人宅を訪れた時、そこに小さな2才と3才の子供さんがおり、始めはおとなしく会話に参加してはいたものの、大人の会話に飽きてきた時その応接間のソファでサーカスをやると言い出



お話中の中村雅子校長

したのでした。ところがその両親はそれとがめないで、「じゃあお客様にも一緒に観てもらいましょうね」と言っただけの子供達に得意技を演じさせ、その演技が終わると「お客様にも観てもらえてよかったね」と言っただけです。その子達はそれで自信をつけたわけで、とても印象深い出来事でした。

鶴二小でも40周年の記念品に何がいいかと問われた時、一輪車の練習台を希望しました。で、集めたベルマークでは足らなかつたのをお母さん方のご尽力でついに2台の練習台を買って下さったのです。子供達は本当に一輪車が好きで昼休みに見回りに行くくと工夫をしたパフォーマンスを見せてくれます。1周したり、手を離したりして本当に誇らしげに見せてくれるのです。それでその2台の練習台をいただく時に紅白のテープカートを6年生にやらせ、その舞台でパフォーマンスをやりたい子供を募ったところ、何と50人もの子供達が応募してきました。パフォーマンスといっても高度なものではなく、舞台の端から端まで走ってみせるというだけでもよいということになりました。中には途中で転ぶ子もいましたが、直ぐ起き上がって完走しました。驚いたのはそれを観ていた子供達が失敗した子供を笑うということなど毛頭なく、立ち上がって完走するのを皆で拍手で讃えたということです。素直に人を讃えあうというのは本当に素晴らしい、そういう感動の場をもっともっと学校で与えられるよう指導していきたいと思いましたが、この子供達が指導しなくても自然にそうやって人を讃えたという態度は涙が出る程嬉しいものでした。「人がどうやって育ったか」という時のポイントが学童期にしっかりと気持ちを受け止めてもらうという経験、体験の豊かさがあると先程申し上げましたが、こうした「人を讃える」という素晴らしいことを自然にやったということ、それが学校で体験できた大きな感動になればと強く思っています。



## 絆のある街づくり — 自主防映画と座談会及び新年会 —

1月30日午後1時半から広袴町内会館において防災・防犯・交通部主催の自主防災映画と座談会及び新年会が行われました。最初に西川文二部長から会の説明があり、その後、スーパーストリー三和の小山健二店長



吉川和男氏  
防団第三分団長の吉川和男氏や第七部長吉川清治氏から日頃の活動報告があ

り、「出張所のプロの皆様に負けないよう消防団17名が最善を尽くして参ります。不可能とされる震災時の消防活動も住民の皆様の手携りで行きたいと思っておりますので、防災訓練のご協力をお願い致します」との呼びかけがありました。広楽会の会長の森吾一氏からもご挨拶があり、「もしもの災害時には足手まといにならないよう、足腰を鍛え、日頃から会の活動にもそのことを組み入れて行きたいと思っております」と抱負を語られました。

その後、阪神淡路大震災の時の「地域防災力が命を救う」というテーマの映画が上映されました。映画の中で震源地に最も近いとされた淡路島の北淡町では地震発生後わずか11時間という早さですべての人命が

救出されたと報告されています。公的機関の救出活動にほとんど頼らず、日頃から近所つき合いが密で、各家庭の情報を網羅した地域の人達やその中の大工さん達が消火活動はもちろんのこと、自分達の道具を持ち寄って家屋や瓦礫に埋もれた人々を救ったのです。

その一方、神戸の都心部では、電気、ガスの火災は29件発生し、たくさんの方の死者や負傷者も出ました。この映画ではいかに地域のつながりや防災力が必要かを訴えています。もし、東京で震災が発生した場合22件の火災が発生すると予測されています。また家具類の転倒や落下物によるけが人は、都内全体で約6万5千人におよぶと予測されています。

昨年10月23日に起きたマグニチュード6・8の新潟県中越地震でも家具類の転倒や落下物による負傷者が最も多く、その中で打撲が一番で、女性と60歳以上の年齢層が6割を占めています。家具類に転倒防止器具を備え付けたり、寝ている付近には家具を置かないことが大切で、消防署の桑原富夫氏から防止器具の取付け方の具体的な説明がありました。

最後に桑原氏は、「広袴町内会では日頃の活動に対し町田市から感謝状という形で表彰されました。今後とも自分たちの街は自分たちで守るという自主防災組織力を高め、訓練のご協力を宜しくお願いします」と結ばれました。

その後、毎年恒例の新年会が行われ、会の一層の発展を願って各々が意見や情報交換を行い、有意義なひとときを過ごされました。(滝口博子)

## 広袴公園、鶴川台せせらぎ緑道を守る会

### 広袴の鳥(その三)

今号では、広袴公園の調整池で子育てをするバン、カイツブリ、カルガモを紹介する。

バンはツル目クイナ科で全長32・5cm「田の番」をする意。全身が黒く額とクチバシの赤がよく目立つ。毎年ここで春から夏の間3回繁殖する。

赤ちゃんも全身が黒く毛がホヤホヤツと生えていて可愛い。今年も5月10日頃7羽が孵った。

カイツブリはカイツブリ目カイツブリ科の水鳥で全長26cm首が赤黒く、しよつちゅう潜って魚などを捕らえる。浮き巣を作って卵を産む。昨年は8月13日頃6羽生まれた。ケレレレ…と甲高い声で鳴く。

カルガモはカモ目カモ科で全長60・5cm全体が茶色で黒いクチバシの先端は黄色。夏ガモとも呼ばれ年中見られる。昨年は8月にバンの子供と一緒に黄色のボールのようなカワイイ赤ちゃんが見られた。



本会は毎月第一土曜日午前8時30分から清掃をしています。皆様のご参加をお待ち致しています。(会長 山本隆治)

### 広袴子供会

町内会の皆様には、日頃より子ども会活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今年度も資源回収を毎月第2第4月曜日に実施(雨天決行・祝日も回収)いたしますので、引き続きご協力をお願いいたします。

さて、広袴地区も宅地開発が進み、この2-3年で、転入された世帯の増加とともに子どもたちの人数も急激に増加しております(4月現在151名・家庭数121軒)。交通量の増加もみられ、子どもたちにとっては危険と思われる箇所がいくつかあります。見直すべき所は、町内会とも検討の上、市や都への要望として提出し、改善を求めていきたいと思っております。

また、最近のニュースでは、子どもが不審者に遭遇したり、被害にあつたりするケースが後を絶ちません。鶴川地区でも不審者の情報は年々増えているのが現状です。学校や家庭でも不審者情報の連絡・セーフティ教室開催・児童の防犯ブザー携帯・保護者の防犯カード携帯等、子どもたちへの指導を徹底いたしております。

町内会の皆様におかれましては、「とびだし注意」・「パトロール中」の看板の設置、「子ども110番の家」に御協力をいただき、ありがとうございます。

このように学校や保護者の(目)の届かないところで、地域の皆様の(目)があればこそ、事件・事故を未然に防ぐことができ、子どもたちが安心して生活できるのだと思えます。今後とも子どもたちの安全確保に向けて、地域の皆様のご協力をお願いいたします。(会長 岩渕 恵美子)



# 広楽会

## 新会館の利用を考える

既に広袴便りや町内会総合資料等で周知の通り、長年の懸案でありまた地元住民からも強く要請されていた町内会館仮称広袴中規模集会所施設がいよいよ8月末に完成の運びとなった事は誠に喜ばしい限りであり、町内会はもとより、地元住民の皆様とともにお祝い申し上げたい気持ちで一杯である。

新会館の建設に際しては多くの地元地権者、建設委員会の方々の多大な御苦勞、御協力の賜物と深く感謝致すと共に、その有意義な活用方法を広楽会全員の創意と知恵を結集させた中から模索してゆきたい。

我々広楽会の活動もこの新会館の誕生を機に大きく様変わりすることが予想される。

何故なら、新会館は旧のそれに比較し、立地条件、建物の構造、規模、設備等々に於いて大幅にグレードアップされており、利用面を考慮して、一階がフロアー、二階が和室と変化に富んだ構造になっており、二つ以上の会合が重なっても充分消化できるスペースを備えているなど、使い勝手も良いので利用率がおのずと向上するのは必至と思われる。従って旧館より更に多角的な利用法が考えられる。私見で恐縮であるが、例えば定期的な会合の他にも、趣味の会合（例、カラオケ、コーラス、囲碁、将棋等）や健康増進のために体操をして一歩前進して外部講師による教養講座の開催等も視野に入れた幅広い利用を考えてもよい。折角立派な会館が出来るのだから広楽会としても会員相互の出会いの場、触れ合い場として幅広く利用し親睦の輪を更に大きく広げてゆきたい。そこで広楽会の皆様に御願ひであるが、前述の他に何かユニークな利用法があれば積極的に御提案頂き、可能な限り大勢の方々が自由かつ公平に利用できるような全員で知恵をしぼってゆきたい。そ

してできればこの会館が隣接する広袴公園と相まって地元地域住民が気軽に集い交流をはかる一大コミュニティゾーンとして末永く機能定着できるよう地域全体で協力し、育成してゆけたら、どんなにか素晴らしい事だろう。（竹野義明）

## 「育てよう」

名を知ることよりも  
花の美しさに感動

富士山の見える花壇「サンセットパーク」が町田市花壇コンクールにて「努力賞」に入賞しました。「おめでと〜う〜」と喜びます

風に触れ花に触れ鳥になりたい〜いい景色見てみたい〜広袴公園とせせらぎ緑道そしてサンセットパーク。今、他所の町から人が来て地域社会の美しさと和やかさを教えるはめになった時、一番に広袴公園とせせらぎ緑道を案内しようと思う。なぜならば広袴の人達の心が燃え環境を整える活動が実っているからです。

せせらぎ緑道を守る会（会長山本隆治さん）は西川文二さんの音頭で立ち上がりました。毎月第一土曜日8時半からの掃除会



努力賞受賞の花壇

で町の有志10人前後の人たちが地域社会の活性化に取り組みます。頼もしく美しい景色です。継続は力となって半年後には公園の空地に花壇を作ろう、芝を植えよう、と参加者の「和」が広がり派生して「広袴公園花壇」が実現しました。更に一年後には尾根道入口横に「サンセットパーク花壇」（会長・寺本公俊さん）がこれも西川文二さんの後押しで作られ、先般の町田市花壇コンクールに於いて何と参加団体中「努力賞」として入賞したわけです。「斬下を借りて母家を取る」の言葉の通り微笑ましく素晴らしい快挙です。

ともすると人は「繁をいとうはこれ人の大病なり」に慣れ流されますが、広袴町に於いては住民の多くに生活環境の育成という自浄能力が強く、その現れとして道路の植込の草取り掃除等が自発的に行われています。まことに心和むいい景色です。

これからのことは町の人達のご協力とご理解が在って初めて可能になります。特に「緑クラブ広楽会」（会長・森五二さん）の応援のもとに広袴は自然を生かした住環境の整った町のモデルケースと成るでしょう。これからもご協力よろしくお願ひします。

広袴公園のみどりとお花を守る会  
会長 大嶋孝之

## 帝王ダリアについて

私の栽培したダリアの写真が、平成15年12月9日の朝日新聞多摩版に掲載された時は、多少の反響があったりして、新聞のメディアのすこさに驚いた。

そもそもこのダリアは、ネパール在住の友人がカトマンズから持ってきてくれた茎から育てたのだ。その友人は、エベレスト街道の出発地ルクラのシェルパに買ったという。南米原産のダリアが、なぜ標高2800mのルクラにあったのかは謎であ

る。私が手にした茎は、直系6センチ、長さ30センチほど、所々に節があり、まるで孟宗竹のようだった。寒さに弱いと言うことで、冬の間新聞紙を巻いて押入に置いた。3月になって、発泡スチロールの箱に茎を入れ、赤玉土をかぶせておいたところ、5月初めに土を割って芽が膨らんだ時は嬉しかった。畑のわきに定植したところ、どんどん大きくなり5メートル近くになり、



帝王ダリア

11月の始めに開花し始めた。

ある日、通りかかった人が、「同じ花をテレビで見た」と教えてくれた。それは大船植物園からの放映だったという。私は早速、花の写真をメールで植物園に送って、名前を問いただした。植物園から「この植物はテイオウ（帝王）ダリアです。テイオウダリアは和名で、他に別名としてコダチダリア（木立ち）とも呼びます。学名はDahia imperialis」と言い、キク科ダリア属です。原産地は南米コロンビアあたりです。」という返事が返ってきた。このダリアの特徴は、背丈が5メートル以上になることや、極端に短日性であること、寒さに弱いことなどである。

帝王ダリアの2年目は、宮前さんにあげた苗は立派に咲いたが、私のは開花し始めた頃に台風で折られて残念な結果となってしまった。今年はまだ是非成功させたいと考えている。（広瀬俊雄）



# 郷土史の発掘と継承——屋号の考証

## （第八回）「なかつて」

「なかつて」は町内会長吉川俊雄氏宅の呼称である。広袴地区に数ある吉川家の中でこの吉川家は一旦何らかの理由で絶家となったものを、祖父亀太郎氏が明治期に他家から分家して再興したとされ、俊雄氏はその再興された吉川家の3代目である。亀太郎氏は本シリーズ第二回「みせ」でご紹介した吉川総本家から分家されており、総本家ご当主正雄氏の祖父、富太郎氏の弟に当る。現在俊雄氏宅玄関前にはこの亀太郎氏お手植えの柿の木の古木が残っている。



吉川俊雄家

「なかつて」とは「なかつて」とは中手という漢字が当てはまるものと思われる。単純に考えると地理的に村の中心に位置するという意味と想われるが、それならば広袴に「上手」、「下手」という屋号があるかといえはそれはない。強いといえは前号で紹介した「ひがしだら」と今号で紹介する「おおしも」が「下手」に該当する。他の可能性として村のシンボルの存在が何かあって、それらの中間に位置したからとも考えられる。が、それを裏付けるものは見つからない。旧広袴村の俯瞰図を見ると、広袴とは、今、団地の鶴川5丁目、6丁目となった界限までをも含んだ広大な地域を総称しており、その地図上

では確かに吉川俊雄家が地理的中心部に位置することが確認される。それ故の命名と見るのが妥当であろうと思われる。ただ、「なかつて」という屋号が絶家の時代からあったのか再興されてからついたのかは判然としない。

## （第九回）「しもだ」



森 吾一家

「しもだ」は前町内会副会長森吾一氏宅のことをいう。「下田」と表記し、広袴村全体の中で川下（かわしも）の方に存在し、しかも山側ではなく水田側の低地にそのお住まいがあるゆえに付いた屋号であろう。しかしお話を伺ってみるといつの頃か不明なるも、昔は現在の町内会館前の坂道をまっすぐ田圃の方に突き当たった処を、「鍛冶屋屋敷」といい、そこに「ご先祖はお住まいであった」と。つまり、今のご住居よりも川上であり、しかも川を挟んで反対（南）側である。その頃から「下田」と呼ばれたのかどうかは分からないが、もしその時から「下田」と称されたのだとすれば何故か。森吾一氏によれば、昔は現在のお住まいを中心に尾根道の川崎との境界線から真光寺川の川べりまでの土地を所有しておられたという。であるならば、ご先祖が鍛冶屋屋敷に住んでおられたとして

も、その水田を中心に村の川下に豊かに展開していた広大な土地「下田」の所有者としてそう呼ばれたのではなからうか。いずれにせよ、村の川下であるが故の命名であろうと思われる。

興味深いのは現在死語になっている「鍛冶屋屋敷」という呼称。森家がその鍛冶屋屋敷の当主として鍛冶屋を営んでいたのかどうか、そしていつから川を渡って現在の所に居を構えるようになったのかは不明とのことであるが、「町田市史」を紐解くと、天明4年（1784）には彦四郎という鍛冶屋触元（元締め）が広袴におり、その触下（配下）に六兵衛という鍛冶が属していたとある。ところが3年後の天明7年に触元は他村の人間に譲り、伊右衛門という鍛冶一人が広袴村に居たこととなっている。これらの方々がその鍛冶屋屋敷で仕事をしておられたのか、また森家のご先祖と関係があったのか今後の調査が待たれる。

## （第十回）「おおしも」



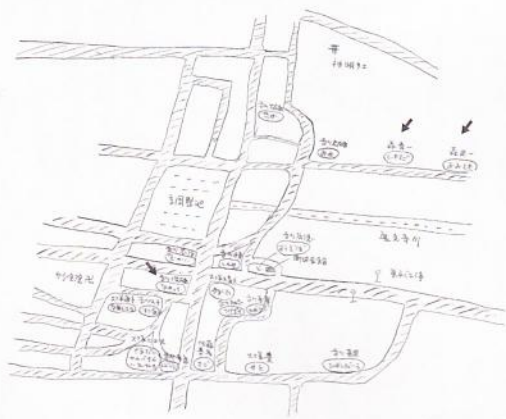
森 正一家

「下田」の森吾一氏宅前の旧道を更に東にたどると左手に「おおしも」と呼ばれる森正一氏宅にたどり着く。広袴便り第3号で、広袴のお店紹介「小さな野菜ショップ」としてご

紹介したところだ。「大下」と漢字で表記される。文字通り広袴村の田圃周辺の低地帯では最も川下（かわしも）に位置する。広袴便り第4号の中でご紹介した「ひがし」と「ひがしだら」が村における山側の東端の位置関係を表わしたとすれば、「しもだ」と「おおしも」は低地帯での東端の位置関係を表したものと見える。

「しもだ」の森家と「おおしも」の森家は現在直接の姻戚関係があるわけではない。が、「しもだ」同様、「おおしも」も昔はその家を中心に川崎との境界から真光寺川までの土地を所有されたとのこと、隣同士でもあり、何代も昔に遡れば本家・分家の関係であった可能性は高い。また、能ヶ谷に昔「しんぐるま」（新車と表記し新しい水車の持ち主だったことが窺われる）という屋号をお持ちであった森家もあり、ご出身の森伝兵衛氏という方が広袴に在住され、その屋敷跡は今に残る。森吾一氏によれば、「しもだ」、「おおしも」共々先代まではこの「しんぐるま」と親戚付き合いがあったとのこと。森家のルーツも奥が深い

（中村一行）





# この町にこんな人 (第五回)

広袴から文化の薫りを発信

「小さなミュージアム」経営の

## 中村一行さん (56)

広袴町22



東平のバス停前にあるレンガ風の洋館をご存知ですか。それが「小さなミュージアム」です。オーナーの中村一行さんは町内会で様々なお仕事に従事して下さっていますが今回は中村さんのお人柄を知って頂きたいと掲載いたしました。

愛知県豊橋市で高校まで過ごした後、大学進学のため上京されましたが、叔母の嫁先、中村家の跡取りとして養子に迎えられました。中村家の父中村武は戦前は判事、戦争直後は戦犯弁護人として尽力し、南方での軍事裁判でその弁護により死刑を免れた戦犯の方が少なからずあったそうです。戦後広袴に居を定め、大学教授の傍ら弁護士としておられました。

中村家に入るまで、中村さんは滝川姓を名乗っていました。戦国時代、織田信長の家臣、滝川一益が長篠の合戦に出陣した時、中村さんのご先祖、滝川源右衛門助義は一益旗下にて出陣。地元の地理に明るかった為、武田勝頼の敗走時、追撃隊の道案内をしながらか先頭に立って追撃し、勝頼のしん

がりであった笠井肥後守満秀と相討ちでその生涯を終えています。その戦功により信長の「一」を賜ったらしく、その後の滝川家一族郎党の男子ほとんど全員の名前に「一」がつき、一行というお名前もそこに由来するそうです。

江戸期、滝川家は地元設楽家の代官(郡代)を勤め、明治になって士族階級が没落すると医者となり、以降、親族の多くが医学の道に進む中、中村さんは医者になることを強制されず慶応大学の経済学部に進み、山岳部に所属されました。山でバテ、もう駄目だと感じた時先輩からしごかれ、何くそと頑張るとバテたはずの体が動き、自分の限界点が伸びたという体験に感動し、後の人生で困難に直面した時、それを乗り越えて行こうという精神的支柱になっているそうです。

### 国際ビジネスの原点

大学時代のもう一つの収穫は4年生の夏、欧州旅行をしたことで、その後の人生の大きな方向付けとなったそうです。留学試験の一つに合格し、就職内定先であった銀行のご理解もあり、入行一年目にユーゴスラビアに留学し、帰国後は国際金融部門に配属されました。

昭和50年、銀行がニューヨーク(NY)支店開設を決めると、7人の開設準備委員の中に抜擢され、5年間NYのウォール街で仕事をされました。その5年後、ロサンゼルス(LA)支店開設準備委員にもなり、LAでも5年間仕事に就かれました。10年間のアメリカ生活で、大変影響を受けたのはアメリカ人の生き様で、異なった価値観を前提として議論をし、相互理解を深める、年

功序列でなく年下でも仕事ができれば上に行く、能力のある人はより好条件の所に転職をしていくキャリア志向である等。自身も実力次第で年俸等の条件がかなえられるところで勝負したいと、帰国後アメリカの金融業界に転じ、ポストン銀行、リーマン・ブラザーズに計15年間に在籍されました。外資企業は1年1年が勝負で結果が出ないと思えるため必死で頑張ったそうです。

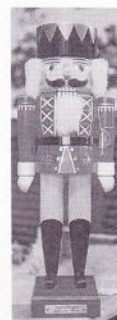
### 町内会活動の原点

平成7年、中村さんに大きな影響を与える出来事がもう一つありました。それは阪神淡路大震災でした。学生時代山岳部で使っていたザックに一週間分の食料、水、寝袋を容れ、西宮のとある公民館の避難所でボランティア活動をされたのです。任務は救援物資の発注、在庫管理と適正な配分でした。もしボランティアに行かねば絶対巡り会えなかった人達とも出会い、滞在中はとても充実した時間を過ごされたそうです。

任務を終えて東京へ戻る時、見送りの方々の中にそっと手を合わせて拜んでくださった方がありました。どんなに人にお願ひしても真手で手を合わせてくださることはないでしょう、すごく感動し、「人の生きる道は自己のためにあらず、むしろ、人に尽くすことにより人によって自分が生かされている」と実感した原体験だったそうです。以来日常生活の中でのボランティア活動を心掛け、町内会で平成7年の組長、平成8年から5年間の消防団、平成15年から2年間の委員、(副会長兼会計、兼総務部長、兼「広袴便り」編集長)と現在につながります。「その結果顔みしりがたくさんでき、とても良かった」そうです。

### 地元で夢を売るビジネスを

今の仕事の原点はNYに住んでいた頃に遡ります。ドイツ系ギフトショップで買ったクルミ割り人形に魅せられ、毎年クリスマスにそれを飾ってこられました。退職をした時、31年間金融業界で培ったキャリアと人脈により、第二の人生は好きなことやりたい、で、クルミ割り人形を日本に紹介するビジネスを展開できないか、と思っただけです。



退職の2日後にはドイツに飛び、様々な幸運にも恵まれ現地の卸業者と契約されました。「Think globally and act locally」という言葉がお好きだそうで、世界的な視野で物事を考えつつも実際の行動は足下(地元)から、と自宅を開放し、本場ドイツのクルミ割り人形を中心に広袴から文化の薫りを発信する事業を展開中です。クルミ割り人形は既に200種類を超え、日本でもトップクラスの規模になっているそうです。

クルミ割り人形以外にも煙出し人形や、NYで有名なアル・ハーシユフェルドのリトグラフ等も展示しておられます。新国立劇場にあるギフトショップの他、都心や地方のデパートでも催事出展、更に今年4月から来年3月までは「日本におけるドイツ年」で、関連の様々なイベントに出展され、とても多忙な年になる予定とのことでした。

### 今後の夢

クルミ割り人形の紹介やそれを製作するドイツのマイスター達との交流を通し、日独文化交流の架け橋となること、その拠点として広袴が注目されるスポットになるといっています。(滝口博子・佐々木幸子)



## 広袴のお店紹介

広袴に登場したコンビニ・スリーエフ

広袴の町も住宅が急激に増えるとともに便利になってきました。そのひとつが広袴中央のバス停留所前に初めて登場しましたコンビニのスリーエフ町田広袴店です。



お店とオーナーの加藤英之氏

オーナーの加藤さんにいろいろお話を伺いました。加藤さんは以前大手スーパーの食品部に勤務しておられましたが、経営不振に伴い、2002年に希望退職されて、スリーエフを立ち上げることを決心なさいました。最初、場所は秦野のご自宅の近くでとお考えのようでしたが、本部からの紹介で2003年にここ広袴に設定されたそうです。街道沿いで住宅街を後ろに控えているという立地条件を鑑みての決定でした。スーパー勤務の頃と比較して現在のコンビニでの仕事は人間関係など精神的なストレス等はありませんが、発注から売り上げに関するすべてをこなしていかなければならないことがサラリーマン時代と大きく変わったことだそうです。休日は無く、夜中の対応は勿論のこと、奥様と旅行に行く事などではできないとのこと。その反面、一国一城の主であるという満足感はあるとおっしゃっています。商品の発注などご自分の今まで培ったデータと勘によって

決定するのですが、それが当たった時は本当に嬉しくやり甲斐があるとの事です。加藤さんはご多忙ながらコンビニ経営の臨場感を味わっていらつしやる様子でした。

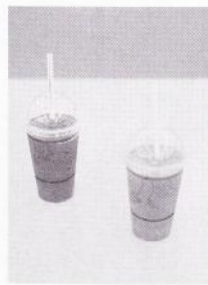
お店は24時間年中無休です。販売以外のサービスは宅急便、写真プリントなどです。その他にFLOWERというシステムがあるのを皆さんご存知でしょうか？お店に入ると左の隅に、ATMの様な機械が設置されています。この機械は、デジカメのプリント、高速バスやスポーツチケット、演劇チケット等の購入、お金の払い込み等ができます。これはATMではありません。ATMはオーナー加藤さんも現在本部に申請中ですが、スリーエフ全体で割り当てがあり、まだ設置の実現はしていません。

さて商品に関しては一般コンビニと同様に殆ど取り揃えてありますが、野菜や果物は置いてありません。売れ筋商品はやはりお弁当、ドリンク、パンが断然トップだと思います。消費期限には厳しく対応し、品落としと言って期限の二時間前には売り場から下げるそうです。

お客様は主婦、学生、工事関係者さままだまだそうです。売り手が、お客様をお迎えする時、「こんにちは。いらつしやいませ。」と、一言声をお掛けするのですが、最近では残念なことに、何の会話も生じることなく、携帯電話で話しながらレジに来る人、一言も話さずお金を出し、買い物する人が多くなっているそうです。ちょっと怪しい感じがするとか。この加藤さんの言葉はとても印象的でした。また外で食べた物を散らかしたままの人、トイレを使用して水を流したままの人、電気はつけたままで出

て行く人等、目にあまる行為も数多いそうです。こうしたマナーの欠落からさらには万引きに至るまでの犯罪行為もあるようで、驚きと共に恥ずべきことだと感じました。コンビニは便利であるゆえに利用する頻度も高く、町の中心的スポットとなっています。正しいマナーをもってスリーエフを利用し美しい街、広袴に繋げてゆきたいものです。

お店の前は七台駐車できるスペースで、郵便ポスト、犬のつなぎ棒も用意されています。さて、暑い夏の訪れと共に、マイルドスラッシュは夏のスリーエフならではの商品。



マイルドスラッシュ

さわやかな水感覚の飲み物です。どうぞお試しあれ。(佐々木幸子・飯塚明子)

### 掲示板

俳句を始めてみませんか！  
俳句を創っておられる方は沢山いると思います。また、機会があったら俳句をやってみようという方も沢山いると思います。でもきっかけがないとなかなか始められませんか。そんな方を対象に同好会を作りたい。一緒に勉強したいと思えます。広袴の美しい自然は、花鳥諷詠の世界にぴったりではないでしょうか？

毎月第三木曜日午後2時から4時

場所 町内会館(予定)

講師 俳人協会会員「万象」同人、馬場秀氏

興味のある方は、7組 広瀬俊雄 電話

(734-2013)までご連絡下さい。

広袴句会(仮称)世話人

広瀬俊雄

町内会館の名称が「広袴会館」に決定しました。応募者の中から抽選により、数名に記念品を贈呈します。

建設委員会委員長 吉川 俊雄

### 編集後記

夕涼みの快い季節になりました。広袴公園の周りにも、日の落ちていくのを待ちきれず、夕方の涼風の中、犬を連れて、子供と一緒に散歩する人々が目立ちます。

広袴という美しい街を真に美しいものにしてゆくのは、そこに住む人々一人一人の心と行動が不可欠です。これから成長してゆく子供達に大人たちが残せる遺産は何でしょうか？美しい街に育った子供達はきっと健全な心をもった大人となって成長してゆくことでしょう。

広袴便りも第五号を迎え街の発展とともに、曲がり角に差し掛かってきました。投げ出してしまいたいことも沢山ありますが、美しく、笑顔で挨拶を交わし合える健全な街づくりのお手伝いが少しでもできたらと、編集委員一同日々考えております。編集のお手伝いに参加してくださる有志の方々、または広袴便りに掲載してほしい事柄などございましたらどんどんお知らせ下さい。出来る限り次号に繋げるべく努力をしてゆきたいと思えますので、皆様の御協力宜しく御願ひ申し上げます。(佐々木) 次号は平成18年1月発行の予定です。

発行日 平成17年7月1日

発行所 東京都町田市広袴町町内会

発行人 吉川俊雄

編集人 飯塚明子 佐々木幸子 滝口博子

竹野義明 谷岡克昭 中村一行

西川文二 広瀬俊雄 松田清貴

百瀬千弥子 (写真・竹野義明)

印刷 (株)サン・メールサービス